

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



2018/11/18

70周年植樹祭 記念フォーラム
木を通じた人と地域の育成
木育による地域づくり。
入づくり。

四方を海に囲まれ南北に長く、標高差の大きい日本の国土には、亜寒帯・亜熱帯に至るさまざまな気候帯が存在している。この特異な環境と湿潤な気候は国土の70%を占める豊かな森林を形成し、そこで暮らすヒトにさまざまな恵みを育みもたらしてきた。法隆寺、東大寺などの木造建築物に代表されるように、日本の多様な森林によって生み出されてきた。その日本において、この数年注目されているのが木育である。



平成16年に北海道から始まった木育は日本人の暮らしの中心に木をとり戻すこと、

子どもをほめて育てる人が木と触れ合える機会を創り出すこと、



2018/11/18

平成19年から林野庁を中心に木育活動が推進されるようになった。幼児期から木との関わりを深め豊かな暮らしづくり、社会づくり、森づくりに貢献できる市民の育成を目指す活動として様々な展開するようになった。

木育の木には、樹木と木材の2つの意味がある。いずれの木も、日本人あるいは日本社会、日本文化の形成に欠かせないものであった。しかし、現在の日本人の暮らしからは木が感じられない。全国の小学生、中学生、大学生に対して行った調査では、現在の日本の森林面積が30年前に比べて50%以下に減っている。若年層の児童生徒が9割を超えていた。(実際の森林面積は約2500万ヘクタールで30年前とほぼ変わらない。)

子どもはもちろんだが、その親の世代も含めて日本人が木との関わりを失いつつある。この現状は、戦後復興期の木材不足、森林荒廃、安価なプラスチック製品や新素材の普及、過度なる自然破壊、不気味な様子を必要が生み出したものである。

海外からの木材輸入自由化は限界集落や消滅可能自治体など山村地域の課題の遠因となった。都市部を中心に木育の推進が広がってきた。



2018/11/18



2018/11/18